

近代社会における「監視」についての社会学的研究

著者	田邊 浩
著者別表示	Tanabe Hiroshi
雑誌名	平成13(2001)年度 科学研究費補助金 奨励研究(A) 研究概要
巻	2000 2001
ページ	2p.
発行年	2016-04-21
URL	http://doi.org/10.24517/00064458



近代社会における「監視」についての社会学的研究

Research Project

All

Project/Area Number

12710095

Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Young Scientists (A)

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

社会学(含社会福祉関係)

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

田邊 浩 金沢大学, 文学部, 助手 (50293329)

Project Period (FY)

2000 - 2001

Project Status

Completed (Fiscal Year 2001)

Budget Amount *help

¥1,300,000 (Direct Cost: ¥1,300,000)

Fiscal Year 2001: ¥500,000 (Direct Cost: ¥500,000)

Fiscal Year 2000: ¥800,000 (Direct Cost: ¥800,000)

Keywords

監視社会 / 管理社会 / プライバシー / 規律 / 情報化 / ギデンズ / フーコー / ウェーバー / 監視 / モダニティ / ポスト・モダニティ

Research Abstract

監視は近代社会を構成する制度的次元の1つである。現代社会を読み解くのに監視はキー概念となるという認識のもと、「監視社会」論を展開することを研究目的とした。

まず、ミッシェル・フーコー、アンソニー・ギデンズ、クリストファー・ダンデカー、デヴィッド・リアン、ウィリアム・ボガードらによって展開された先行研究を検討し、監視社会に関する理解を深めた。

そうした先行研究を踏まえ、「監視社会」論の射程を拡張していくために、特に、以下の点について検討した。

第一に、監視の歴史について考察した。監視は近代以前はかなり古くから存在しているが、近代における監視はそれ以前のものとは様相を異にしている。私たちが、日常生活のあらゆるところまでさまざまな形で監視されていることを確認した。

第二に、監視のテクノロジーについて調査した。監視はテクノロジーに依拠している。テクノロジーの進展とともに監視は高度化している。とりわけ、コンピューターやインターネットなど、現在の情報処理技術の飛躍的な発展が、監視のあり方を大きく変貌させている。そうした監視テクノロジーによって、私たちの日常生活や、主体としての私たちのあり方まで変容させられていることを明らかにした。

第三に、監視と国民国家の関係について検討した。国民国家は、多くの国民の監視が可能になってはじめて成立したことを明らかにした。

最後に,監視とプライバシーの問題について検討した.私たちが日常のいたるところで監視されているとするならば,私たちのプライバシーはいかに守られるべきであるのか.理論的,規範的に考察した.

以上が研究実績の概要である.日本社会について,監視社会論という観点から分析することを最終的な目標として設定していたが,そこまでは到達しなかった.今後の課題としたい.

Report (2 results)

2001 Annual Research Report

2000 Annual Research Report

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-12710095/>

Published: 2000-03-31 Modified: 2016-04-21